

課題選定の背景

定期的な間伐搬出作業に作業道を利用

繰り返し使える作業道の整備が必要

昨年度までの活動内容

- 八頭町内での作業道調査
⇒施工における**改善点を明確化**
- 調査結果の伝達及び研修会実施
⇒**施工に反映**されつつある

管内の作業道開設の状況①

適切な切土、盛土	未改善の現場では…
	切土が崩落

管内の作業道開設の状況②

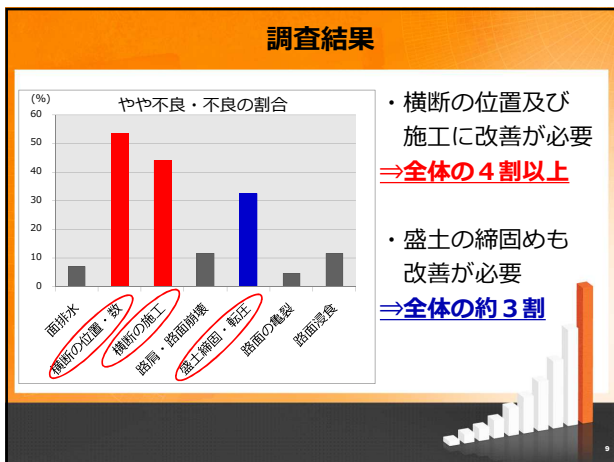
適切な横断溝設置	機能が発揮されず…
	路面が洗掘される

不足部分を踏まえた今年度の活動

	昨年度	今年度
対象地域	八頭町のみ	管内全域
伝達対象	個別の職員	組織上層部から職員へ
研修方法	座学の研修	現場で具体的な 施工技術研修

作業道調査及び評価

対 象	H24・H25に開設された作業道約50路線
調査内容	路面排水、横断溝の位置・数、横断溝の施工方法、路肩・法面の崩壊、盛土締固・転圧、路面亀裂、路面浸食
評価方法	各項目を4段階で評価 (1:良 2:やや良 3:やや不良 4:不良)



問題点④ 盛土締め不足

路面亀裂



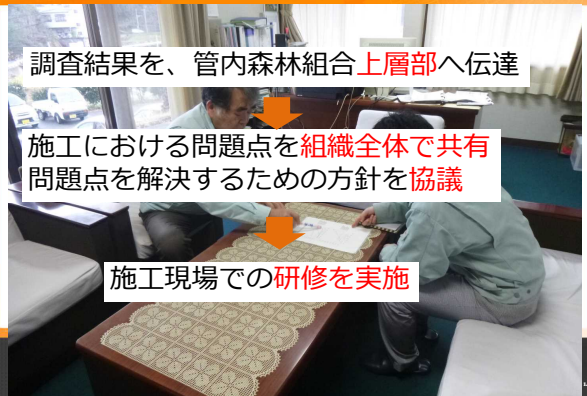


13

調査結果の伝達

調査結果を、管内森林組合上層部へ伝達

施工における問題点を組織全体で共有
問題点を解決するための方針を協議


施工現場での研修を実施

14

森林作業道研修 (H26年9月)

目的	作業道調査での問題点(横断溝設置方法、盛土施工)を改善する
対象	管内3森林組合及び下請事業者のオペレーター計32名
内容	現地研修を行い、施工方法について指導



15

横断溝の設置、角度



- ・30～50m間隔での設置が望ましい
- ・縦断に対して直角ではなく、30°～45°の角度をつけて設置すること



16

盛土の施工方法



- ・表土を使った盛土の施工方法について指導
- ・表土と心土を交互に重ね合わせ、入念な転圧を行うこと



17

施工状況確認



作業道開設現場で施工状況を確認

↓

表土利用、段切り施工
適切な横断溝の設置

↓

研修の成果が現場に反映される



18

活動の成果



確実な状況改善

- ・組織全体で情報共有
- ・オペレーターの研修参加

調査結果を
組織上層部へ伝達




普及対象からの要望

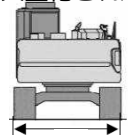


作業道の施工技術向上に
継続した支援が必要
↓
今後も**継続して研修**を
実施してほしい




残された課題


- ・規格の大きな機械での開設技術について助言
⇒大型化された機械での開設が主流になりつつある



※作業道幅員は
車両幅員2.3m～ 概ね3.0m



履帯での転圧が不十分である可能性
トラックの走行に耐えられる施工が課題



残された課題

- ・作業道ルート検討段階での支援
⇒ルートを決める**プランナー**を普及対象に加える

崩れにくく、繰り返し使える
ルートを検討する際の
傾斜区分図の活用推進

